

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和2年度)

2020年 10月 26日

MIRATZ大鳥居保育園 殿

郵便番号 110-0016

所在地 東京都台東区台東3-2-5大林ビル2F

評価機関名 有限会社 エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	地域型保育事業 小規模保育事業A型		
調査対象事業所名称	MIRATZ大鳥居保育園		
事業所連絡先	郵便番号	144-0047	
	所在地	東京都大田区萩中3-8-8-101	
	電話番号	03-6423-8614	
契約日	2020年	6月	3日
利用者調査票配付日(実施日)	2020年	7月	3日
利用者調査結果報告日	2020年	9月	12日
自己評価の調査票配付日	2020年	7月	8日
自己評価結果報告日	2020年	9月	12日
訪問調査日	2020年	9月	15日
結果合議日	2020年	9月	29日
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	保育園の協力のもと利用者調査用紙を保護者(園児)へ配布して頂いた。回収については、保育園の協力のもと保護者から回収をして頂き、まとめて評価機関宛てに郵送して頂いた。第三者を確保するために、無記名での回収をする趣旨を利用者調査ご協力のお願い文などを別紙に作成し配布した。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

2020年 10月 26日

事業者代表者氏名 MIRATZ大鳥居保育園 園長



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1 未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子供を育む 2 心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共存する子どもを育む 3 みんなを親しみ愛し太陽の様に暖かい心を持った子供を育む</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>安全への配慮・意識や視野を持つ。又は行動が出来る事、一人ひとりの気持ちに寄り添い個性を大切に出来る事。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>安全への配慮・意識や視野を持つ。又は行動が出来る事、一人ひとりの気持ちに寄り添い個性を大切に出来る事。</p>

調査対象

保育園に通っている園児18世帯18人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保護者に、封入したアンケート用紙を回収ボックスに投函願ひ、回収ボックスごと回収したうえで集計した。傾向を掴むために、各問い別のグラフを用い分析し、保護者の属性でもある勤務形態(常勤勤務とそれ以外)の比率を把握することで自由意見などのバラツキも確認できた。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

18

18

18

13

72.2

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」46.2%、「満足」46.2%の計92.3%であった。

自由意見では、「子どもの日中の様子を細かく教えてください」「先生方は、保護者に寄り添った声掛けをしてくれて、いつも励みになっています」「出来るだけお外や児童館等へ連れて行っていただけで、有難いです」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声も寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもの対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「安全対策」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中12問が80%以上の支持を得ており、50%を下回ったのは「行事日程」「苦情窓口」の2問である。それ以外の設問は50%前半～70%後半の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	13	0	0	0
<p>「はい」の回答は100.0%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	2	0	0
<p>「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は15.4%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	13	0	0	0
<p>「はい」の回答は100.0%であった。</p> <p>自由意見では、「保育園に通いだしてから、便の調子が良くなりました。3日に1回でしたが、今は毎日出るようになりました」という声が寄せられていた。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	12	1	0	0
<p>「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。</p> <p>自由意見では、「荻中公園に連れて行ってもらっており、外で体を動かさせていると思います」という声が寄せられていた。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	9	1	0	3
<p>「はい」の回答は69.2%、「どちらともいえない」の回答は7.7%、「無回答・非該当」の回答は23.1%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	0	0	0
<p>「はい」の回答は100.0%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	6	4	1	2
<p>「はい」の回答は46.2%、「どちらともいえない」の回答は30.8%、「いいえ」の回答は7.7%、「無回答・非該当」の回答は15.4%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	2	0	0
<p>「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は15.4%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	12	1	0	0
<p>「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	12	1	0	0
<p>「はい」の回答は92.3%、「いいえ」の回答は7.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	2	0	1
<p>「はい」の回答は76.9%、「どちらともいえない」の回答は15.4%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	2	0	3
<p>「はい」の回答は61.5%、「どちらともいえない」の回答は15.4%、「無回答・非該当」の回答は23.1%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	2	0	0
<p>「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は15.4%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	11	1	0	1
<p>「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は7.7%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	1	1	0
<p>「はい」の回答は84.6%、「どちらともいえない」の回答は7.7%、「いいえ」の回答は7.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	1	0	0
<p>「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	4	2	1
<p>「はい」の回答は46.2%、「どちらともいえない」の回答は30.8%、「いいえ」の回答は15.4%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ1の講評		
<p>「入園ガイド」やホームページなどを利用して園の情報を提供している</p> <p>見学者や保育所体験者などには、園の保育理念や保育時間、持ち物、年間行事、一日のスケジュールなどがわかりやすくまとめられたA4サイズの「入園ガイド」を配布し、園の情報を伝えている。また、会社全体のホームページや当園のFacebookを設けており、系列園の情報や園の日常の保育の様子や園生活を楽しんでいる子どもたちの表情などが公開されている。園では近隣の方にも周知がなされるよう、戸外活動時などにチラシを持参しながら宣伝をして行きたいと考えている。園のアピールに向けたより一層の取組に期待したい。</p> <p>利用希望や見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</p> <p>利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、見学したい内容や時間を確認し、見学者の希望に沿った日時で案内をしている。園の内容が盛り込まれた「入園案内」をもとに保育理念や特色をわかりやすく説明している。見学者への対応では、入園ガイドだけではわからない魅力や、子どもの楽しんでいる姿、雰囲気などをできる限り細かく伝え、小規模園をより身近に感じてもらうよう努めている。また、保育体験にも積極的に参加を呼び掛けている。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園面接では、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している</p> <p>入園が決まると入園面接前に書類を送り、日程の調整を行っている。入園面接時には、事前に送った書類に記入の上持参してもらい園の基本的なルールや重要事項を説明しながら確認を行っている。持ち物の説明は、実物を見てもらいながらわかりやすく行っている。料金や保険などより詳しく伝えたい内容は事例を挙げながら説明し、不明点や質問などにも丁寧に対応している。利用契約書や写真や映像などのプライバシー保護に関する書類には署名捺印をもらい同意を得ている。</p> <p>サービスに関する説明の際には、保護者の意向を確認し、記録している</p> <p>入園前の入園面接では、おもに保護者が記入済みの「入園までの生活状況」をもとに保護者の意向などを確認し記録を残している。生活状況は、生まれてから現在までの成長の様子を記載する様式となっており、「プロフィール」の下部には、「お子さんの件で保育園に伝えておきたい事」が記載できる欄を設けている。面接の時には確認した内容だけでなく対応者が感じた情報も記載し、面接に立ち立っていない職員にも情報が伝わるようにしている。提出書類や面接などで記録した書類は、一人一人個人ファイルとしてまとめ、入園後の保育に活かしている。</p> <p>利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している</p> <p>利用開始直後には、保育時間を徐々に延ばしていく慣らし保育を概ね2週間で設定し、一日目は1時間から開始している。1週目で昼食まで過ごし2週目で午睡から夕方までの設定で行っている。概ねの期間は決めているが、子どもの様子を保護者と共有し、相談をしながら行っている。なかなか寝付けけない子どもがいた時には、家庭で使用しているお気に入りのタオルケットを持参してもらい午睡時に使用した例もある。集団生活の中にも、個別対応を心がけ、スキンシップを十分に行うことで子どもの不安やストレスが軽減されるように努めている。</p>			

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	
サブカテゴリ3の講評		
<p> 子どもの心身状況や生活状況などは、統一した様式に記録して把握している 保育日誌は、全体のねらいや活動、評価、反省、食事の内容に加え個人の様子を記載できる書式に整理し活用している。保護者とやり取りをする連絡ノートは、共有内容を園で保管できるよう複写式を使用している。個人記録は成長に合わせて3か月ごとの子どもの姿を記載し、職員間で共有している。子ども一人一人のねらいや目標を持ち、担当者が定期的に成長記録と結果(反省を含めた総評)を記録している。毎月のミーティングでは、クラス報告も行い、目標に向けた保育が展開できるよう職員間で確認している。 </p> <p> 指導計画は全体的な計画をもとに立案され、個別の目標は保護者と連携して進めている 指導計画は、園で大切にしたいことや人権への配慮なども盛り込まれた全体的な計画をもとに、年間、月案、週日案におおして作成している。毎月作成している個別の計画書には個人目標や配慮面などを記載している。また、成長記録として個人記録を作成し、入園～退園(卒園)まで、達成記録を含めた成長記録と、3か月ごとの反省を記入している。個人目標の設定は、園や家庭での子どもの様子を連絡帳や送迎時の会話で保護者と共有し、「トイレトレーニング」「着脱」「食具を使つての食事」などの内容を保護者と連携して進めている。 </p> <p> 指導計画の内容や個人の記録を、担当する全職員が共有し、活用している 毎月、職員ミーティング、給食会議を行い、指導計画の内容や子ども一人一人の共有すべき内容について確認し、日々の保育に活かしている。職員の自己評価からも小規模園の利点が活かされ、職員間の情報共有や協力体制の良さが窺える。毎日の子どもの小さな変化にも気づいて対応できるよう一人一人に寄り添い、朝の申し送りや午睡時の全体確認では、看護師や給食担当の職員も一緒に情報共有を図っている。 </p>		

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>個人情報の取り扱いについては利用契約書に記載し、適切に管理している</p> <p>個人情報の取り扱いについては利用契約書に記載し、保育に必要な子ども一人一人の情報などは園内で適切に管理している。園ではFacebookやビデオレターなど外部への情報発信の際の写真や映像の利用について承諾書を作成し、項目別に保護者に可否を確認して署名捺印をもらい承諾を得ている。公開される写真などについては、利用者調査より配慮のあるものをとのコメントが寄せられており、掲載前に今一度確認を行うことに期待したい。</p> <p>子ども一人一人を尊重し、価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている</p> <p>入園前の面接では、「保育園で気を付けて欲しい事」の記載について内容を確認し、記載がない場合でも口頭で確認を取っている。統一した保育を展開するため、入園後に知りえた情報で全体共有が望ましいと判断したものは共有している。生活習慣の違いや価値観の違いを否定する事はせず、「個」を大切にしたい保育を目標に、様々な個性を受け入れ、子ども一人一人を尊重する保育に努めている。子どもたちが安心して過ごせる環境作りのための職員の意欲・知識の向上に心掛け、日常の保育を展開している。</p>			

6 事業所業務の標準化

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子ども様子を反映するようにしている

サブカテゴリ-6の講評

保育に必要なマニュアルを整備し、活用している

マニュアルは、会社全体のマニュアルと大鳥居保育園独自のマニュアルがあり、特に嘔吐、熱性けいれん、消毒、緊急時の受診に関しては独自で作成し活用している。定期的に看護師によるシュミレーションを行っており、園長や主任が不在の場合にも備え、どの職員が見てもわかるように専用のファイルを用意し、ファイルを開けば流れが分かるようなイラスト付きのフローチャートの活用も行っている。感染症など、職員が常に必要とするマニュアルや記入用紙は所定の位置に置き、すぐに閲覧や記載ができる体制を整えている。

年間指導計画や保育目標を見直し、「次につなげる保育」に取り組んでいる

3年目の園として、提供するサービスをもとに、より良い保育サービスの提供が行えるように、年間指導計画の見直しや、毎年の保育目標を見直し、「次につなげる保育」に取り組んでいる。「保護者会」「運営委員会」を通して会社組織としての報告を行うとともに、運営委員会では、各クラスから代表の保護者に参加してもらい、民生委員や会社代表の出席のもと、日ごろのサービスの基本事項や手順などについて意見をいただく場として活用している。運営委員会が、さらに活発な意見交換の場となり、次につなげる保育に反映できるよう期待したい。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>子どもたちが、好きな遊びをじっくり行えるような環境を整えている</p> <p>子どもたちが好きな遊びをじっくり行えるように、入園月は入園前にきき取った子どもの情報から作成した保育計画をもとに様子をみながら保育を行い、日々の子どもの姿を見ながら計画を見直し、翌月の計画に反映させている。コーナー遊びや、好きな遊びをじっくり行えるような環境を整え、興味を持ちそうな玩具は準備する個数を確認し、保育室のレイアウトを適宜変更しながら興味関心を高めるよう努めている。玩具は、既製品よりも手作りの玩具を増やし、仕切りに子どもたちが喜ぶ工夫を凝らしながら子どもたちに新たな発見と温かみを伝えている。</p> <p>子どもに寄り添い、個性を尊重しながら子どもたちが共に成長できるよう支援している</p> <p>特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、友だちや保育者、調理職員、近隣保育園や児童館での交流、近隣住民との関わりを通して、子どもに寄り添い、個性を尊重しながら集団での生活を大切に捉え、共に成長できるよう支援している。また、子どもたちが年齢や文化の違いなどを認め合い、お互いを尊重する心が育つよう、朝や夕方の合同保育の時間以外にもクラス間で行き来を行える環境を作り、異年齢での関わりや担任以外の職員との関わる機会を作っている。</p> <p>子ども同士のトラブルでは、子どもの気持ちを尊重した対応を行っている</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに対しては、職員は決めつけを行わないことを念頭におき、年齢や状況に合わせて見守りながら必要にあわせて援助や声掛けをしている。2歳児は、自分たちで解決に向けた関わり方や自分の意見を自分の口で言えるような環境作りを保育者が行っていきながら、幼児クラスへとつなげられるよう心がけている。1歳児もいけないことはその都度話をしながら、繰り返し伝えるようにしている。子どもたちが、「ありがとう」「ごめんなさい」が言えるような、お互いを思いあえる心が芽生えて行けるよう支援している。</p>				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(0000)

評価	標準項目	
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	

評価項目2の講評

登降園時には、保護者と子どもの様子を共有している

朝の登園時には、保護者とあいさつを交わし、子どもの様子をきき、連絡帳の確認を行っている。確認した内容は「毎日の記録」に記入し、職員が情報共有している。降園時には連絡帳のやり取りの他、保護者に子どもの1日の様子を丁寧に伝えている。利用者調査からも「子どもの日中の様子を細かく教えてください。」「お迎えの時に日中のはなしを教えてくださいただけのも楽しみにしています。」などのコメントが寄せられており、保護者とのコミュニケーションを大切にしていることが窺える。

基本的な生活習慣の獲得は、保護者と情報共有しながら発達の状態に応じて行っている

園内の写真販売やFacebookでは、園での子どもたちの発達の様子が分かるような公開を行っている。年間の保健計画では、家庭との連携内容も計画しており、毎月の保健だよりでは基本的な生活習慣の大切さを保護者に伝えている。また、園だよりのクラス紹介文では子どもたちの様子を伝え、発達の状態に応じた食具を使っての食事やトイレトレーニングなど家庭と連携して支援している。

休息や午睡は子ども一人一人の状況に応じて対応している

休息や午睡の長さや時間帯は、家庭から昨夜寝つきが悪かったなどの情報や子どもの体力や体調、月齢などを考慮して一人一人の様子を見て調整している。日中の活動も体調や気候を見ながら室内遊びの判断をしたり、静と動の活動比率を考慮したり、水遊びなどの活動の仕方に留意して時間配分を行っている。子ども一人一人の様子に合わせて休憩時間や午睡の時間に配慮し、午睡チェックカードや日誌などに記録を残している。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大きさに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	

評価項目3の講評

子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている

ゆったり遊ぶ活動や表現する活動を楽しみたい子どもに対して、部屋の一角にお絵描きコーナーを設定し、大小のシールやクレヨンを準備している。糊やハサミを使用したい時は職員の配置など、安全な体制を整えて行っている。コーナーを設定することで、子どもが自分のスペースで安心して遊ぶことができる。子どもが「静」「動」の活動選択を自ら行えることで、自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮が行われている。

子どもたちが集団活動に主体的に関われるよう、ねらいをもち段階を踏んで支援している

子どもたちが集団活動に主体的に関われるよう、6月は「身近な保育者や友達に関心をもち一緒にいる事を楽しむ」、7月は「保育者と一緒に遊ぶ中で友達との関わりを知る」、8月は「友達に興味をもつ」とねらいをもち、「家庭」から「集団」への過ごし方について段階を踏んで体験していけるよう配慮を行っている。集団ではあるが「個」を大切に、保育者が伝える事や絵本などの教材、体験や経験をもとに学ぶことで子どもの自主性などの環境や人的要因を大切に、尊重する中で「自分の気付き」や「発見」につなげる保育を目指している。

戸外活動では、目的地までの行き来が単なる移動の手段とならないようにしている

天気が良い時は、戸外活動を行っている。保育者は、子どもたちとの会話を楽しみながら周囲に目を向けるきっかけとなる声掛けや子ども達の興味や関心に耳を傾け、目的地までの行き来が単なる移動の手段とならないようにしている。小規模園のため園庭がないが、積極的に近隣の公園などへ出かけ子どもたちが季節の移り変わりを感じ、体験できるよう努めている。公園の遊具は安全に配慮し、年齢に見合ったものを使用している。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	

評価項目4の講評

行事の実施は、子どもが興味や関心をもち自ら進んで取り組めるよう工夫している

年間行事予定を立て、七夕や節分など日本の伝統や文化、水遊びやすいかわり、ハロウィン、クリスマス会など季節を取り入れた行事を計画している。また、園では日常の保育の延長として子どもたちが無理なく楽しめる行事を心がけており、例えばラップおにぎりを作ろうでは、具材とご飯をそれぞれの器で用意し、子どもが自ら食べられる量のご飯をすくって具材を選んで乗せたり、形を作ったりして分量の加減や食への興味関心がもてるように取り組んでいる。園内の様子は園だよりやFacebookなどに公開し保護者に知らせている。

子どもが意欲的に行事などに取り組めるよう保護者の理解や協力を得ている

園内行事の「ハロウィン」では、2歳児は子どもたちと行事内で使用する小物を一緒に作成し、1歳児は行事に楽しく参加している。保護者へは行事前に周知を行い、事前準備などあまり負担をかけないように配慮し理解や協力を得ている。行事の計画にあたっては、子どもも楽しい、おとなも楽しい計画を盛り込んで実施することも重点に置いている。園内行事でも、地域に根付いた保育園を目指し近隣商店街などにも協力を依頼し、同時に園の存在を知ってもらう機会にもつなげている。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが安心して過ごせるよう「静」と「動」を取り入れている</p> <p>保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう遊びの中に「静」と「動」を取り入れ、疲れた時には心も身体も休められるような一人になれるコーナーを作っている。1部屋という空間を分けて使用できることで、好きな遊びや興味のある遊びを用意し、子どもはその中から自分で探し、移動しながら自由に選べる環境を設定している。また、用意した以外にも子ども自身からの「これやりたい」が挙がった時は空間を作り保育者が一人一人に寄り添って対応している。</p> <p>クラスごとの活動と合同保育の時間を設定し、楽しく過ごせるよう配慮している</p> <p>クラスごとの活動と合同保育の時間を設定し、2歳児は保育者や他の子どもとの関わりをもつことで言葉を使ってのやり取りを楽しみ、1歳児は年上の子の真似をするなどクラス活動ではできない楽しみを一緒に行う機会をもつことができている。合同保育時間は、1歳児・2歳児クラスを使ってのコーナー遊びの空間を作り、お絵描きとミニカーなど遊び方の違いでも空間を分け好きな遊びを満喫できるようにし、楽しく過ごせるよう配慮している。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評		
<p>子どもが楽しく落ち着いて食事をとれるよう取り組んでいる</p> <p>子どもが楽しく落ち着いて食事をとれるよう、ひとテーブル当たりの人数にゆとりを持たせ、手づかみや食具を使っての食事をを行い、決して無理強いせず食べる事の楽しさを大切にしている。毎月の給食会議では、食べ具合や翌月の献立、食育などについて話し合っている。子どもたちの食べている様子から、味付けを変えてみたり食材の大きさや切り方を変えてみたり柔軟に対応している。2歳児は、食べる事を楽しみながら、幼児クラスへ向けこぼさないで食べる習慣づけにも留意し、様子をみながら食事エプロンを使用しないで食べることにも取り組んでいる。</p> <p>食物アレルギーに配慮し、見て楽しい、食べても美味しい給食を提供している</p> <p>毎月の食材に季節のものを取り入れ、見て楽しい、食べても美味しい給食を提供している。子どもたちの食べ具合をもとに毎月の給食会議で話し合い、次回に向けたアレンジを行うなどして、子どもがより食べられる配慮も行っている。例えば七夕の行事の時には、ご飯を星型に抜いたドライカレー、短冊サラダ、天の川スープなど子どもたちが給食を前に笑顔になるメニューを提供している。アレルギーにも配慮をしており、保護者には献立の確認と承諾書を提出してもらっている。机や食器も専用にし、誤食などの事故が起こらないよう、細心の注意を払っている。</p> <p>季節の野菜や果物に直接触れる活動やクッキングなどの食育活動に取り組んでいる</p> <p>食育計画を保育計画に盛り込み、活動の内容にあわせて、2歳児のみの活動や1歳児も一緒に参加などの形を取り入れている。季節の野菜や果物に直接触れる活動やクッキングなど子どもたちが食に興味・関心をもてるような内容に取り組んでいる。2歳児の買い物に出かける体験、合同クラスでの野菜スタンプ遊びなど、食べる以外の食育活動も取り入れている。保護者に対しては給食のレシピを伝えたり、給食のサンプルを見てもらったり、降園時の会話やおたよりで食の大切さを伝えている。利用者調査の園の食事に対する結果をみても高い満足率となっている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	

評価項目7の講評

子どもたちが病気やけがを予防・防止できるように援助している
 子どもの体調や家庭でできたケガや傷などは登園時に保護者へ確認している。状況によって活動の内容を判断し、こまめに検温や水分補給の促しなどを保育者が行いながら、鼻水などは子ども自身が自分で拭き、ティッシュを捨てる習慣付けができるよう支援している。また、年間保健計画を立て、看護師と保育者が連携して正しい手の洗い方やうがい、咳エチケットなど、子どもたちに徐々に身に付くよう発達の状態をみながら伝えている。

病院一覧表を作成し、緊急のケガや病気で受診が必要な際に備えている
 子どもたちの定期健診は嘱託医が行っている。その他緊急のケガや病気で受診が必要な際は作成した病院一覧表をもとに各診察項目が備わった病院への受診を行っている。受診前には必ず保護者の同意と承諾を得ている。保護者には適宜報告を行い、お迎え時に時系列と診察結果を改めて報告している。常勤保育者は上級救命を受講しており、園長はさらにエマージェンシー研修も受講している。1・2歳児園として、子どもの安心・安全に努めている。

乳幼児突然死症候群に備え、午睡チェックは見て触れてのダブルチェックを行っている
 入園面接時に「入園までの生活」をもとに質問をし、普段の眠りや、寝方、その他気になった点は事前に保護者から得た情報を記録に残し、個人ファイルに保管している。乳幼児突然死症候群(SIDS)に備え、日々の午睡時間は見て触れてのダブルチェックを行い10分おきに適宜確認している。午睡チェック表には寝返り、咳などの症状チェック欄も設け、体制を変えたり確認したりした際は記録に残している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	

評価項目8の講評

保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている
 保護者の急な予定など、個別の事情に配慮して柔軟に対応できるよう努めている。また、引き渡し訓練などで全員が対象のもので、保護者の仕事の事情に応じて個別相談にも応じている。土曜保育希望者の利用時間に合わせた職員の配置や保護者会等での「お子様お預かり」など保護者の要望に応え、小規模園の強みとなるよう保護者の就労支援に努めている。

子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取組を行っている
 利用者全体に伝えたいことは保護者配布や園内掲示をしている。職員自身の養育力向上のため研修は内部、外部問わず参加し一人一人の意識向上、知識の向上に努めている。また、年2回保護者会の場を作り、その中で自己紹介や子どもの家庭での様子、悩みなどの意見交換、食事などのアドバイスなど保護者同士で行えるような機会も取り入れている。保育園での子どもの様子もクラスでの発達の様子、個人の発達の様子で話すなどし、小規模だからこそ見える、伝えられる一人一人の細やかな点まで配慮し保護者と情報共有している。

保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している
 保護者が働きやすい環境に対応した職員配置を行い保護者にも寄り添うことを心がけている。また、就労に伴い普段はみえない子どもの姿や成長を「行事」という形を通してみてもらい、園の中に入れていただく機会を設けている。保育者への相談、子育ての話がしやすい環境を作り、共に育てるに向け保護者との信頼関係の構築に努めている。今後も、新しい生活様式での親子行事や保護者会、面談などに取り組んでいくことに期待したい。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、子どもたちが地域の一員として生活する機会を設けている</p> <p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるよう、近隣保育園の遊び体験や園庭開放への参加、児童館でのイベント参加などの機会を設けている。小規模園だからこそできるフットワークの軽さで柔軟に対応し、商店街などの園外の方との触れ合う機会も多く作っている。子どもたちは、最初人見知りがあるものの、あいさつを交わし、顔なじみになることで次第に交流ができるようになっていく。園は、保育理念である「みんなを親しみ愛し太陽の様に暖かい心を持った子どもを育む」に向けて、子どもたちが地域の一員として生活する機会を設けている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1	評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2	評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3	評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
確認できていない	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
確認済み	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>事業者以外の相談先として第三者委員を設置し、苦情解決制度の仕組みを整えている</p> <p>園では苦情対応要綱を、入園のしおりや重要事項説明書に記載して保護者に配布し、園内に掲示もしている。事業者以外の相談先として第三者委員を設置し、地域の民生委員が担当している。保護者に対しては、入園前の面接で配布した書類をもとに苦情解決制度について説明を行っているが、利用者調査の結果では、職員以外の人にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたかの問いに、はいと答えたのは約半数であった。保護者の認知度向上のため、掲示や説明の工夫など、より一層の取組に期待したい。</p> <p>カメラの設置やマニュアルの整備など、虐待防止に向けた対策を講じている</p> <p>子どもたちの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、保育者同士の日々の言葉遣い、社会人としてのマナーにも目頃から気をつけ、保育も複数の目でやっている。園にはカメラも設置しており抑止力にもなっている。虐待を受けている疑いの情報を受けた時や、事実を把握した場合に備え、虐待対応フローチャート、虐待防止マニュアルを作成し、定期的に職員の研修も行い知識の向上を図っている。異変や疑いを感じた際は主任や園長に相談のもと、関係機関へ連絡をする体制を整えている。</p> <p>深刻な事故等に遭遇した場合に備えた、事業継続計画(BCP)の作成に期待したい</p> <p>園では、①災害②事故③侵入④感染症⑤経営環境の変化などのリスクに優先順位をつけ、訓練の実施や計画の見直しなどを行っている。毎月の避難訓練・不審者訓練、年に1~2回の水害訓練に加え、年に1回保護者への引き渡し訓練を行っている。訓練を行うことで課題を見つけ、実際の災害に備えている。消防計画や各種訓練マニュアルは作成し活用しているが、深刻な事故等に遭遇した場合に備えた、事業継続計画(BCP)の作成に期待したい。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル①	上級救命を受講し、子どもたちが安全に過せるように取り組んでいる	
内容①	<p>当園は、1・2歳児の保育園ということもあり、安全面には十分な配慮に努めている。嘔吐処理や熱性けいれんの対応、消毒方法、緊急時の受診など、園独自のマニュアルを作成し、定期的に看護師がチェックを行っている。例えば、乳幼児に対応した嘔吐処理・心肺蘇生の研修に参加し、研修後は参加した職員が他の職員に対して伝える時間を設けるなど、園全体で安全に保育が行われるよう知識の向上が図られている。常勤の保育者は上級救命を受講しており、さらに園長はエマージェンシー研修を受講し、子どもたちの安心・安全に向けて取り組んでいる。</p>	

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	担当リーダー制では役割分担を決めることで、責任感が生まれ、保育の意欲や質の向上につながっている
	内容	園では、保育者、看護師、栄養士、調理担当など業種を問わず相談しやすい環境作り、職員間の信頼と関係性作りが大切と考え取り組んでいる。経験の浅い職員も発言しやすい環境を整えており、さらに担当リーダー制を設けている事で責任感が生まれている。保育力の向上のためにリズム、音楽、フィジカルと部門を分け、各部のリーダーが遊び方や道具の使い方、楽しみ方、各担当に合った研修への参加などに取り組んでいる。職員会議などで各部の情報を共有し、問題点や対策などを検討することで、職員一人一人の保育の意欲や質の向上につながっている。
2	タイトル	地域とのかかわりを大切にすることを園の理念に掲げ、地域交流を積極的に行っている
	内容	「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」という保育理念のもと、地域との交流を積極期に行っている。ハロウィンでは、地域の商店街の方に事前に協力を得て、仮装した子どもたちが練り歩く中、職員手作りのおもちゃを子どもたちに配ってもらった。子どもたちは行事を楽しみながら、職員以外のおとなと接する機会や地域で大切にされていることを感じることもつながっている。さらに近隣の公園、児童館、小学生～高校生などの職業体験・ボランティアの受け入れなど子どもたちが多様な活動ができるよう取り組んでいる。
No.		今後の課題と思われる点
1	タイトル	地域の子育て家庭の支援に向けて、より一層の情報発信力の強化と企画内容の検討に期待したい
	内容	地域の方に園を知ってもらう手段として、会社のホームページ、園のFacebook、園の入口の掲示板などを使っている。保育園の立地は、大きな道路沿いで壁面はあるが見学者からは保育園と気づきにくい場所であるとの意見があった。園では保育所体験や見学、育児相談、ボランティアの募集などチラシを作り、掲示するなどして呼びかけている。地域の子育て家庭の支援に向けて、より一層の広報の工夫による情報発信力の強化と企画内容の検討に期待したい。
2	タイトル	保育所としてリスクマネジメントに取り組んでいるが、さらに大規模災害に備え、事業継続計画の策定に期待したい
	内容	事故や感染症、侵入や災害、経営環境の変化など、保育所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスクを洗い出し、避難訓練の実施や食料・飲料水などの備蓄をしている。今後は、大規模災害発生後に早期に園の運営を再開できる対策を講じるために園の保育活動を継続化するために必要なリスク、例えば停電や断水への対応、職員の出勤困難への対応など、速やかに保育活動を再開するためのプランを策定しておくことが重要であると考えられる。想定されるリスクを整理し、大規模災害に備えた事業継続計画(BCP)の策定に期待したい。